

カナダ

一生の思い出が
つまった8ヶ月間みつい ゆずか
三井 柚香さん

日本語クラブで知り合った友人と（最前列向かって一番左）

年月	国名	学校名	課程名	留学の種類	奨学金の有無 (有：名称)	備考
2018.4 ～ 2023.3	日 本	東京外国語大学	言語文化 学部			
2022.9 ～ 2023.4	カ ナ ダ	クィーンズ大学	Arts and Science	大学を休学 して留学	高円宮記念クィーンズ大学留学奨学金	

帰国後

2023年4月 日系の化学メーカーに就職、現在に至る。

きっかけは幼少期の原体験

私は自動車産業が盛んな地域で育ったこともあり、幼少期から周りに海外にルーツを持つ友人がたくさんいました。

クラスに数人はスペイン語やポルトガル語を話せる子がいるのが当たり前だったので、自然と海外の文化に興味を持つようになり、大学も国際系の大学に進学しました。それまでも漠然と留学したいと思っていたのですが、大学で多文化共生というテーマに興味を持ったことで異なるバックグラウンドを持つ人たちが一緒に暮らす社会に自分も飛び込んでみたいと思う気持ちが強くなりました。

留学中止からのスタート

もともと大学の交換留学が決まっていたのですが、パンデミックの影響で中止になってしまいました。最初は留学自体を諦めることも考えましたが、留学するなら今しかない！と思い、奨学金（高円宮記念クィーンズ大学留学奨学金）への応募を決めました。大学1年の時にバンクーバーに短期留学したことがあり、その際に物足りなさを感じていたため、留学先がカナダであったことも応募のきっかけになりました。実際に留学が決まってからは、履修登録や航空券の手配など慌ただしかったです。特にビザは取得に時間がかかったため、早めに手をつけることをおすすめします。

多様な価値観に触れた留学生活

授業は以前から関心のあったカナダの歴史と多文化共生を中心に履修しました。課題の量は授業ごとに異なりますが、予習は課題図書を読み込み、復習はミニクイズやショートエッセイという場合が多かったです。テストは日本と同様、中間と期末がありますが、テストの代わりにエッセイを提出する授業もありました。春と秋にReading Weekという1週間の休みがあるので、そこで友人とオタワやモントリオールに旅行に行き、息抜きをしていました。

また、生活面は身の回りに多様性が溢れていてとても刺激的でした。食事に関して言えば、寮の食堂には必ずベジタリアン向けのメニューやハラルフードが用意されており、驚きました。クラブ活動も多種多様で、エシカルファッションやセルフケアなど文化系のクラブが充実しているのが印象的でした。



紅葉が色づくキャンパス



日本で再会を果たした友人と（向かって左）

海を越えた絆

現在は日系の化学メーカーで働いています。仕事上でカナダとの直接的な関わりはありませんが、プライベートでは今でも留学中にできた友人と連絡を取り合っています。去年の夏にはそのうちの一人が日本に遊びに来てくれました。留学から数年経ちましたが、今でも変わらないつながりがあることに感謝しています。

日本人というアイデンティティ

新たな発見の連続だった留学期間ですが、今振り返ると、授業中に日本の立場からの意見を求められたり、友人から日本文化について質問されたりと、意外にも自分が日本人であることを強く意識する場面が多くありました。留学を通して日本の良さを再認識したことも、私にとっては大きな収穫でした。

知れば知るほど好きになるカナダ

人気の留学先ランキング1位に選ばれるカナダなので、留学前から良いイメージを持っていたのですが、実際に留学した今でもその印象は変わりません。特に、私が通っていたクィーンズ大学は治安も良く、食事も充実していて本当に過ごしやすい環境でした。海外生活が初めての人にもおすすめしたいです。

私の語学勉強法

現地での勉強を乗り切るために

反面教師にしてほしいのですが、留学前にもっと英語の論文やエッセイを読んでおくべきだったと少し反省しています。大学では、授業前に膨大な量の文献に目を通す必要があり、予習にかなりの時間を割きました。留学前にどれだけ勉強していても分からない単語、言い回しは必ず出てくるとは思います。とにかく英文に慣れておく、抵抗感をなくしておくということが現地での勉強のハードルを下げることに繋がるとは思います。

イギリス



自分がのびのび 学べる環境を

やまもり はづき
山森 葉月さん



ロンドンの街中にある兵隊と

年月	国名	学校名	課程名	留学の種類	奨学金の有無 (有: 名称)	備考
2021.4	日本	都立国際高等学校 卒業	国際バカロ レアコース			
2021.10 ↓ 2024.7	イギリス	Imperial College London	生化学	学位取得留学	柳井正財団 海外大学奨学金	卒業 学士号取得
2024.9	米国	Duke University	生化学	学位(博士) 取得留学		

卒業後

博士取得後の予定は未定だが、生化学の研究を続けたいと思っている。

サマーキャンプがくれた決意

高校入学前のほとんどを海外で過ごしていたため、海外大学への進学は常に選択肢の一つでした。しかし、本格的に「行こう!」と決意したのは、中学2年生で参加したスタンフォードのサマーキャンプです。教授との距離が近く、自由に質問や議論ができる環境に刺激を受けました。また、最先端の実験施設を見学するうちに、「こんな場所で思い切り学びたい」という強い思いが芽生えました。この経験が、海外大学進学への明確な目標につながりました。

自分に合った学びの環境を求めて

もともと英語圏の大学への進学を考えていたのですが、その中でも生化学を学べるイギリスとアメリカの大学を受験しました。最終的にイギリスを選んだ理由は、教養学部がなく、1年目から専門的に学べる大学のシステムに魅力を感じたからです。さらに、これまでイギリスに住んだことがなかったこと、新しい環境に挑戦したかったこと、そしてヨーロッパに近く旅行しやすい点も決め手となりました。



キッチンの友達と買った恐竜

キッチンに集まる仲間たちとの大学生活

インペリアル・カレッジでは、大学1年生の間はキッチンのみ共有で、寝室とシャワーは個室の寮に住みます。授業は同じ学部の学生としか受けられないため、寮のキッチンを通して異なる学部の友人ができます。私はそこで出会った友人と4人で、2年生以降はシェアハウスをしていました。一緒にお菓子を作ったり、映画を見たり、クリスマス会を開いたり、楽しい時間を過ごしました。

大学では、1つの科目でもトピックごとに専門の教授が授業を担当し、最新の研究について学べるのが魅力です。ただ、毎回長期休みの後に成績の70%を占める試験があるのは大変でした。休んでいても試験が頭をよぎり、完全にリラックスするのが難しかったのですが、試験があるのはみな同じなので、キッチンに集まり、一緒に勉強したのは今では良い思い出です。

学びの先へ、アメリカの大学院へ

学部での学びを通じて、得た知識はまだ入り口に過ぎないと感じ、もっと使える知識にしたいと思い大学院へ進学しました。さらに、所属研究室の教授から、私の関心のある分野はアメリカのほうが進んでおり、直接博士課程に応募できると聞き、挑戦を決意。興味分野に合った研究環境を求め、アメリカの大学院へ進学しました。

もっと挑戦に前向きに

好きな分野を学べたことに加え、大学生という時間のある時期に、住んだことのない国へ一人で飛び込み、周りの国を冒険できたことは貴重な経験でした。広い世界を知り、挑戦に前向きになれたことは大きな収穫です。また、どこにいても「ただいま」と言える大切な友人にも出会えました。

オプションの一つとしてのイギリス留学

イギリスは天気が悪くてご飯がまずいという印象を持たれがちですが、冬には短い日照時間の中で美しいイルミネーションが楽しめます。また、サンデーローストやアフタヌーンティーなど、美味しい食べ物もたくさん。少しでも興味があるなら、大学進学の実選択肢としてイギリス留学を考えてみてください!



冬の遊園地のイルミネーション

私の語学勉強法

映画で学ぶイギリス英語と文化

日常生活や友達との会話での英語は、国によってかなり違うので、実際に留学して学ぶのが一番だと思います。勉強に使う英語は、YouTubeで自分の興味のある分野を英語で解説している動画を、字幕付きで1.5~2倍速で再生し、鍛えていました。イギリスに留学するのなら、ハリポッターやジェームズボンドなどのイギリスのスタンダードな映画を観るのも、現地の文化や言い回しを学ぶのにおすすめです。